

伊達な旅ガイド

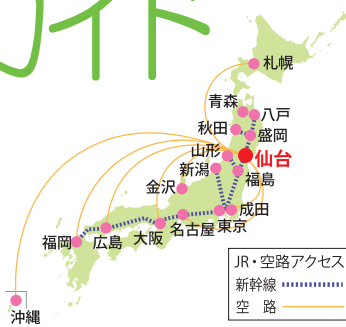
Vol.67

笑顔咲くたび 伊達な旅
仙台 Sendai & Miyagi, where smiles blossom 宮城

伊達な旅紀行

いいトコ!
みやぎ

毎週月曜日
19:54~20:00
BS-TBSにて大好評放送中



今回の伊達な旅MAP



東北新幹線で東京から約1時間40分

1月23日
放送

仙台レトロ案内

仙台の街には、大正15年から昭和51年まで市電が走っていました。実物の市電や資料を公開している「仙台市電保存館」をはじめ、仙台にはレトロな魅力がたくさんあります。伝統的な和紙を作る「柳生和紙工房」もその一つ。丈夫な和紙は卒業証書などにも使われる地域の特産品です。また、伊達家が代々住んだという屋敷を利用した「鐘景閣」でもレトロな雰囲気が楽しめます。古きよき時代の仙台の魅力に触れながら、旅を楽しんでみませんか。



せんだい旅日和

検索

今回立ち寄った場所

仙台市電保存館

創業当時の車両、車掌がパンチを打った乗換券や乗車券など、市電に関する貴重な資料が展示されています。

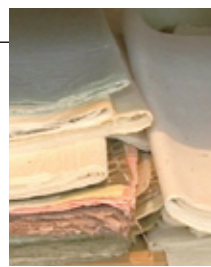
Tel.022-244-1267



柳生和紙工房

現在、仙台市の柳生地区に伝わる和紙を作る唯一の工房。柳生和紙は、卒業証書や菓子の包み紙、便箋、仙台の縁起物「松川だるま」にも使われています。

Tel.022-241-3044



鐘景閣

旧仙台藩主が住んだお屋敷。伝統工芸品の仙台筆筒に入った料理を提供しています。

Tel.022-245-6665



宮城であったこんな人

■仙台市電保存館 佐藤 一男さん

「大正15年11月25日に営業を開始したときの1号車も展示しています。この電車は『チンチン電車』といわれ、発車オーライを鐘の音で知らせます。停車、発車のときには2回鳴らします。小さいころは、私も窓の外を見ることに夢中で、『運転手になる』といって、親を困らせました。今でも残っていたらよかったのになあ、と思うこともあります」

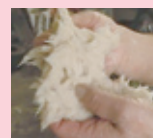


■柳生和紙工房 佐藤 ふみゑさん

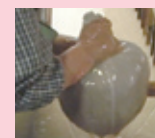
「柳生和紙は、風合いと強さが抜群。絶やしたくないのですが、私も歳をとっていきますので、心配しています。」



柳生和紙ができるまで



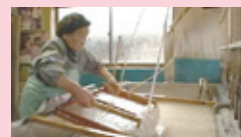
1 和紙の原料となるのは、コウゾ、ミツマタの白皮。



2 原料を桴の棒で打って細かくします。



3 トロロアオイの汁を入れて紙のもとを作ります。



4 紙すきをします。



5 丁寧に乾燥させます。